

日伯農業開発協力第 期試験的事業
投融资審査等調査
帰国報告書

平成 12 年 8 月

国際協力事業団

序 文

強酸性土壌のため耕作に向かないといわれてきたブラジル中央部に広がるセラード地帯の開発のため、日伯両政府は官民合同のナショナルプロジェクトとして1979年に日伯セラード農業開発協力事業(プロデセール)を開始しました。これまでにJICAは3次にわたる試験的事業に対し総額150億円以上にのぼる融資を行ってきております。

プロデセールを中心とするセラード農業開発は、中核的な農業経営体を中心に、大規模な農業地帯を創設するという大きな成果をもたらしており、耕地面積の拡大及び穀物生産の増産などにより、ブラジルの農業の発展に大きく寄与しています。

現在第 期試験的事業は1994年から2000年3月の実施予定でありましたが、諸般の事情もあり事業期間を1年間延長して2001年3月までの予定で継続実施しています。

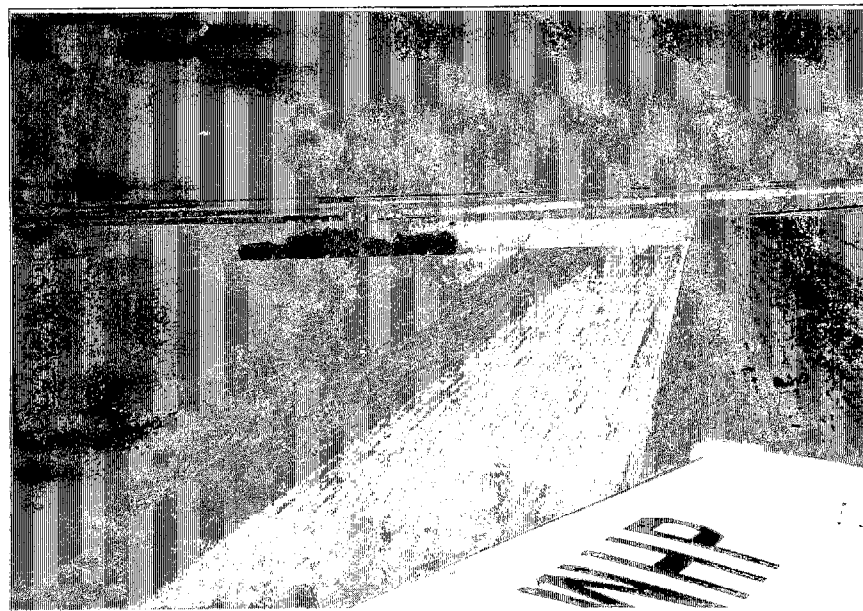
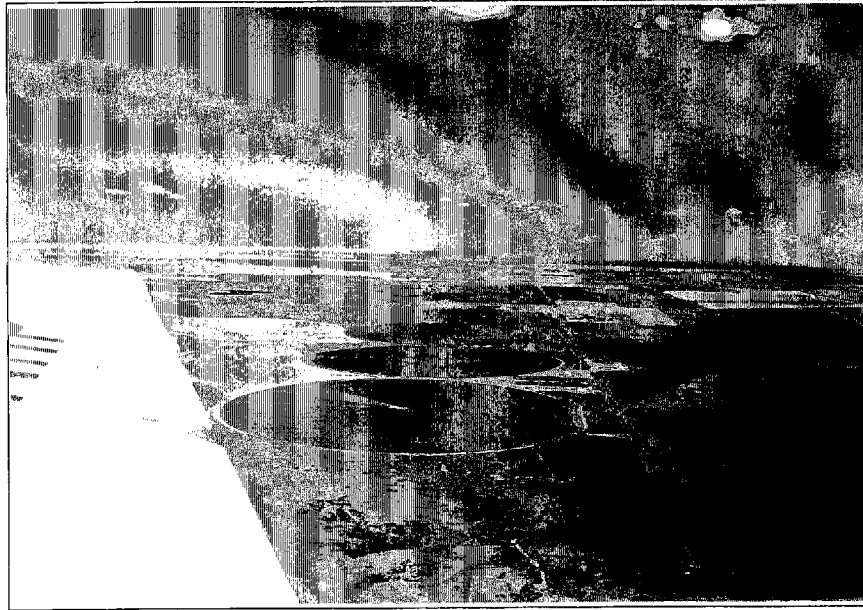
当事業団は本事業の期間延長後の事業進捗状況及び現状での問題に対するブラジル側の対応などを確認し、今後の事業実施促進の方策について関係機関と協議することを目的とした調査を実施し、その結果を取りまとめました。

プロデセールの現状をご理解いただくとともに、約21年間にわたるプロデセール事業の変遷や波及効果などをご理解いただくうえでの参考資料として活用していただければ幸いです。

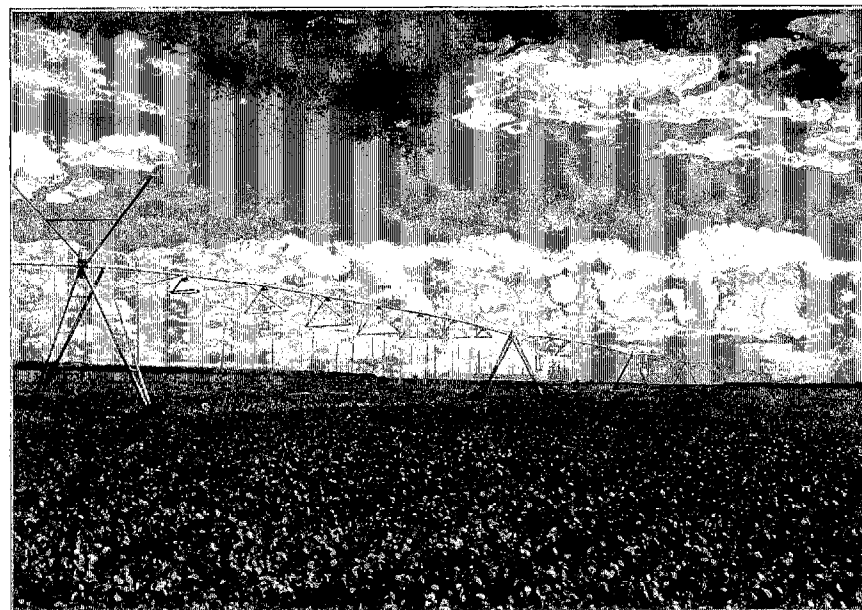
最後に本調査の実施に際してご協力頂いた関係各位に心より感謝申し上げます。次第です。

平成12年8月

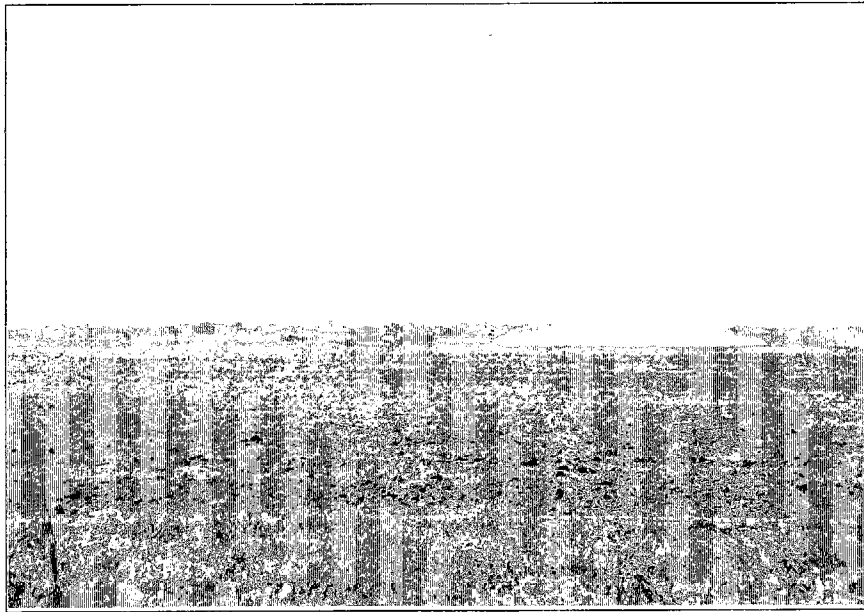
国際協力事業団
理事 後藤 洋



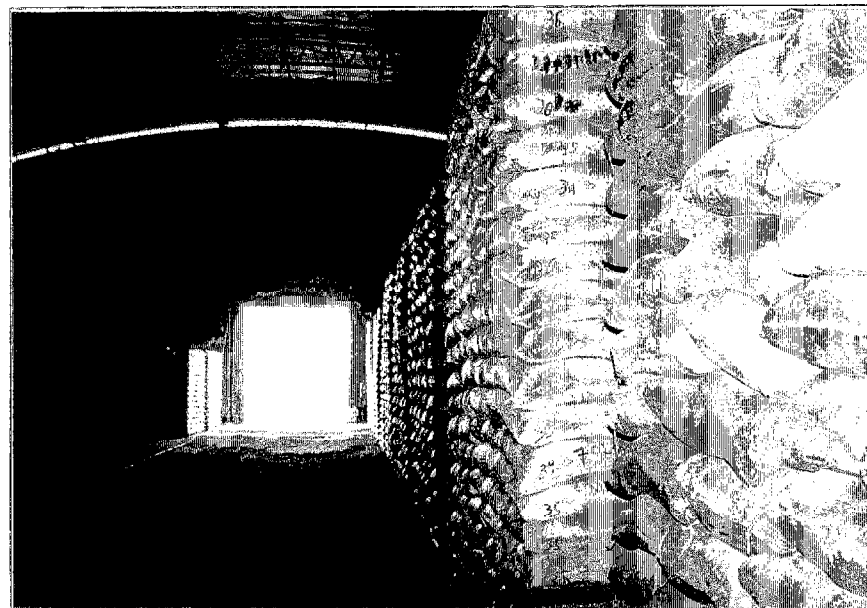
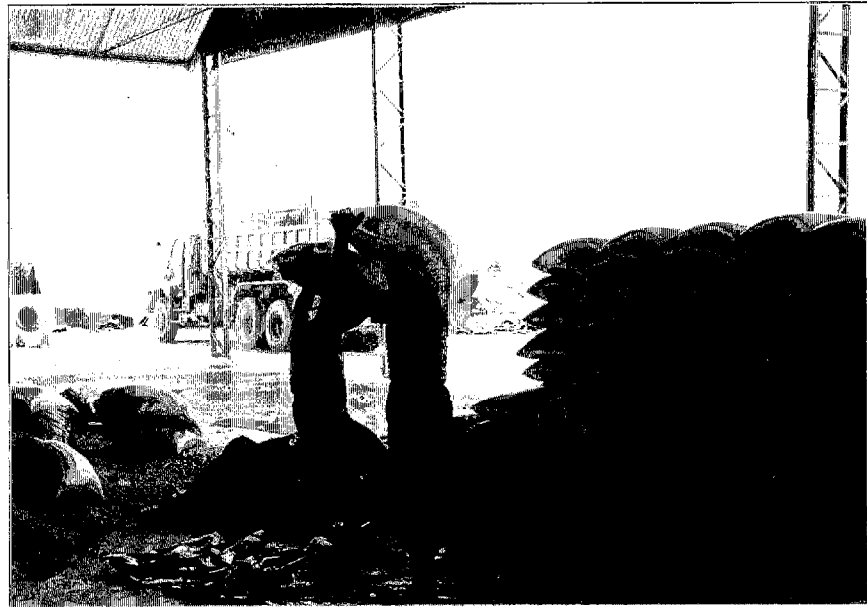
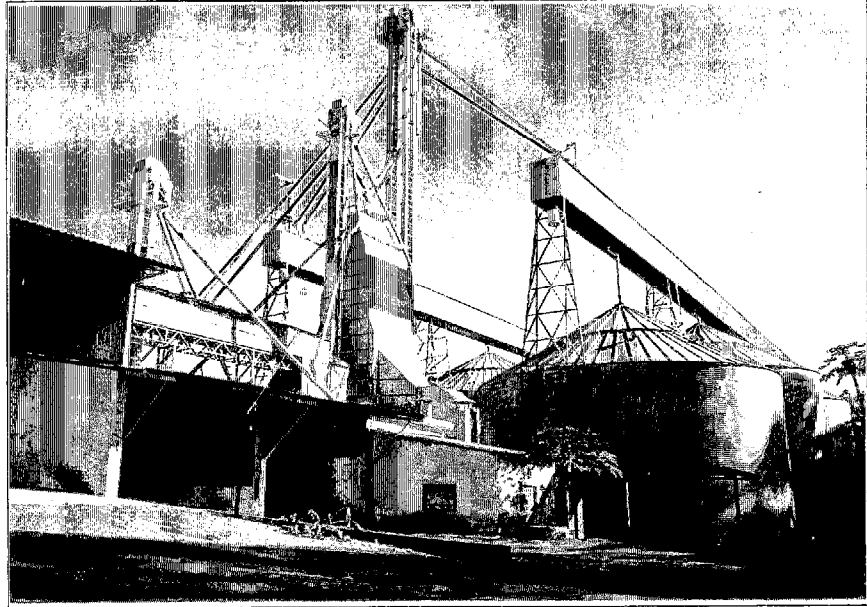
第Ⅲ期事業地 ジェバウ



セントラルピボによる灌漑



大型農機による耕作



穀物サイロ ジェバウ事業地



ペドロアフォンソ サイロ及び穀物搬入施設建設予定地



ミニスプリンクラーによる果樹栽培



第 I 期事業地（作物の多様化が進む）